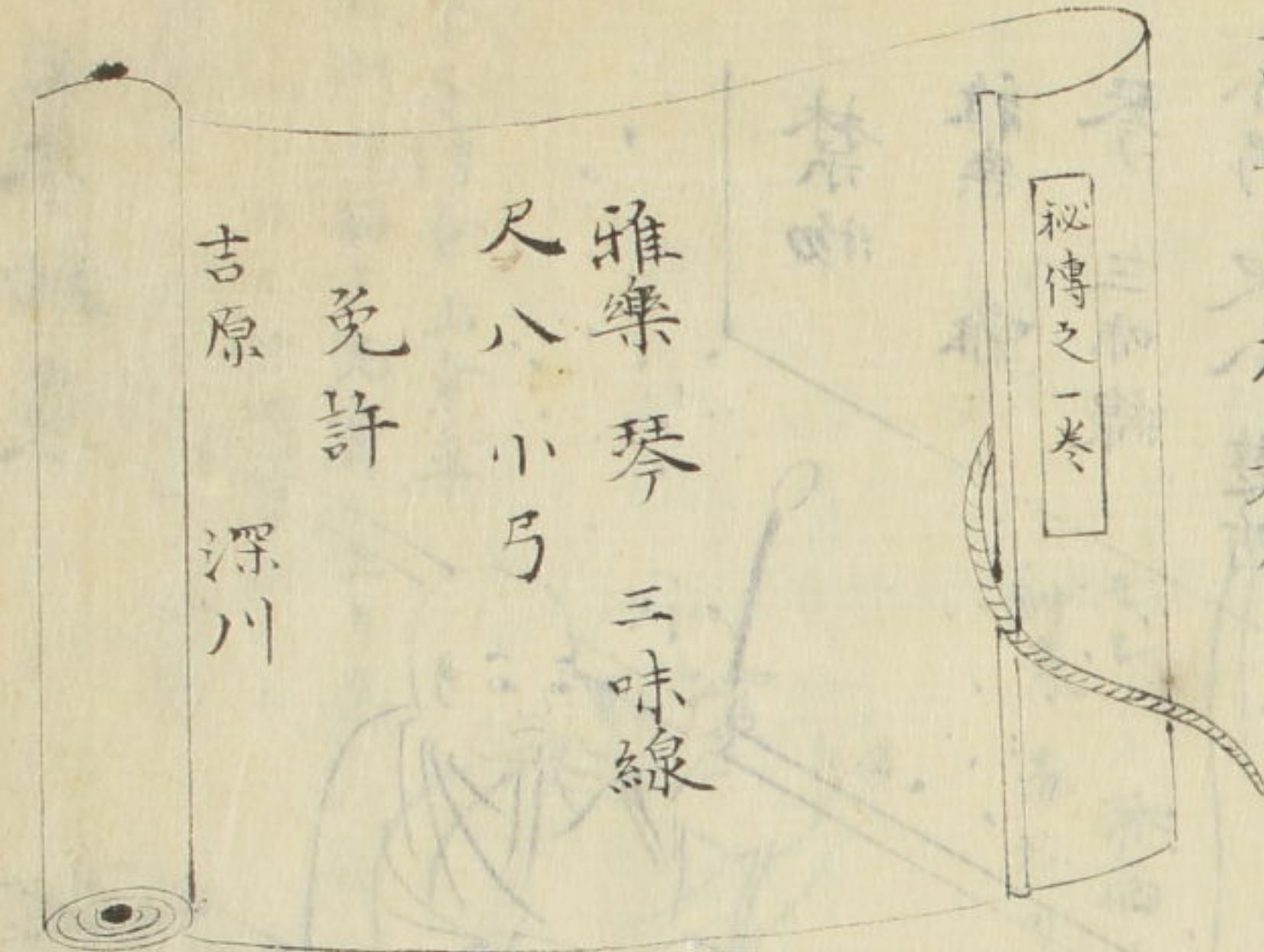




僧  
548  
3



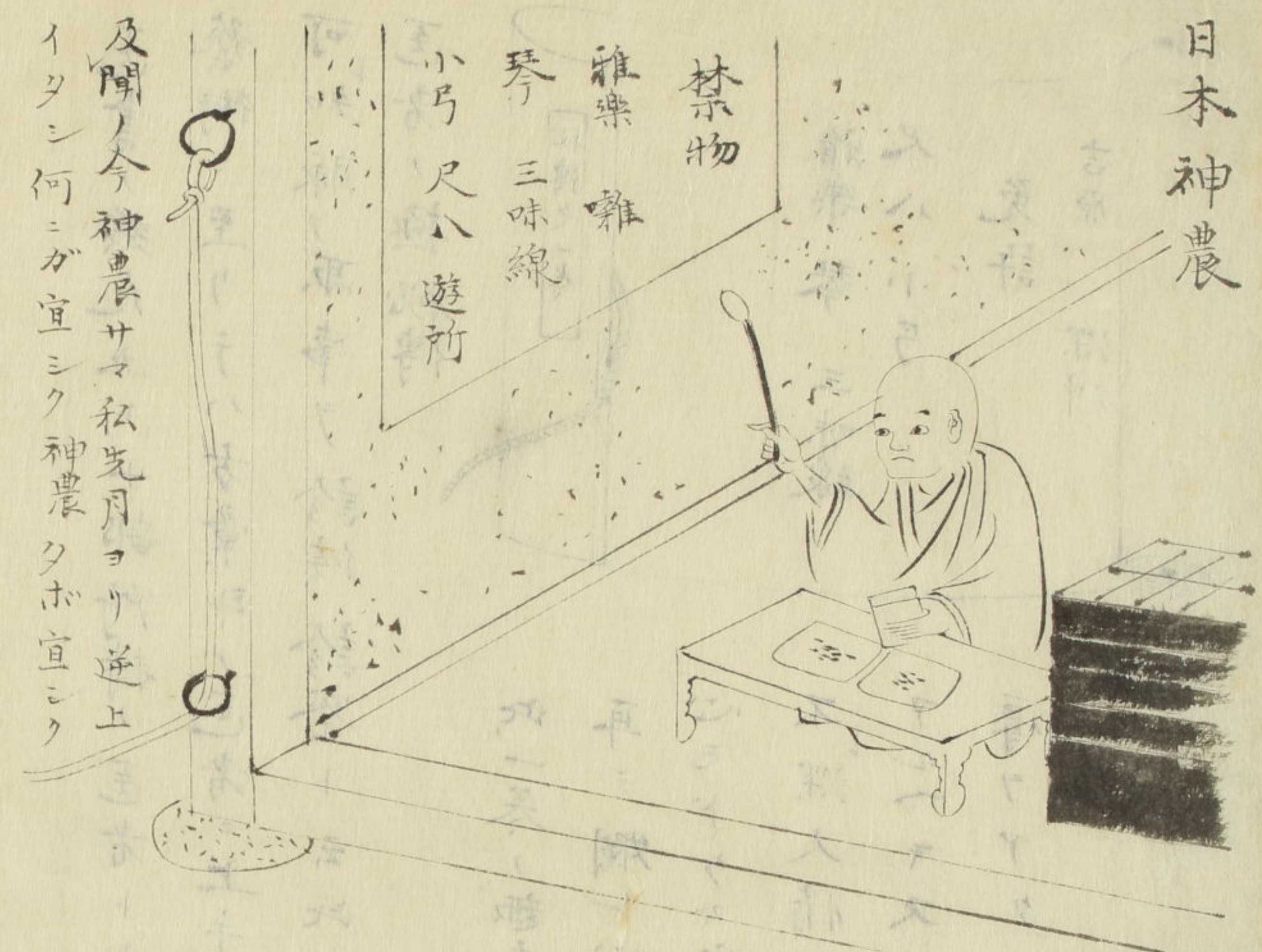
医書ノ類凡五六部所持ノ医者ト方景壹冊所持ノ医者  
藝術ニ至リテハ方景斗ノ医者ニ上手アリ依ラ六ヶ  
可知脈ヲ取事ヲ診候診察ト云此文字ノギリヲ可見  
医者ノ極秘傳



此一巻ノ趣意ハ自分一己ノ嗜ナリ  
耳ニ爛レ心ニ覺ヘコレヲナケレバ  
心モドケカ実ニ人ノ人情ヲ知ル事  
不深人情ニ不深ハ脈ナドモイカニ  
アルヘキ又心ヤウカニシテ人ニ耻  
辱ヲアタヘス



日本神農



禁物

雅樂 雜

琴 三味線

小弓 尺八 遊竹

及開ノ今神農サマ私先月ヨリ逆上  
イタシ何ニガ宜シク神農夕ホ宜シク



此條書ヲ好ハ医者ハ  
腑按ト云テ医者ノ本  
意ヲ不知拙者家ノ  
ギハ代々學問ヲ專一  
トイタシ本草ナドハ  
腹内ニアリ何事ト不  
奇毎不知古ル家ノ造作  
ナドハ傳アリ

サラ又女子器ヲ吞針治之  
妙業アリソラ豆ヲ煮テ  
菜ト肉食スレハ針大使  
ヨリ出ルナリ此ノ三味ヲ  
細末ニイタシ壹包ワスカ  
十二文

老人夕ホハハアノ時ニ神農サマ  
毒モ逆上イタシ神農暫考ヲ録録  
ヲ以空別ハ寸ハ神池スヘシ妙



モシハ淋病ニハ何ガ宜シク  
神農赤花ヲ可用  
アリガク

ハイヤイ  
御用ナラ此ノ問ニ御求ナヤイ  
姓名ノ御尋ハ御用捨ノ  
ホドヲ希候



弟子侍倉山幸平  
武術ヲ好ミ尤肩ノ上リヲ  
ミルヘシ日々出積草臥ハラ  
黄昏ヨリ死人ノ如シ油所  
ナルヘシ



此ノ繩ニハアヤマル

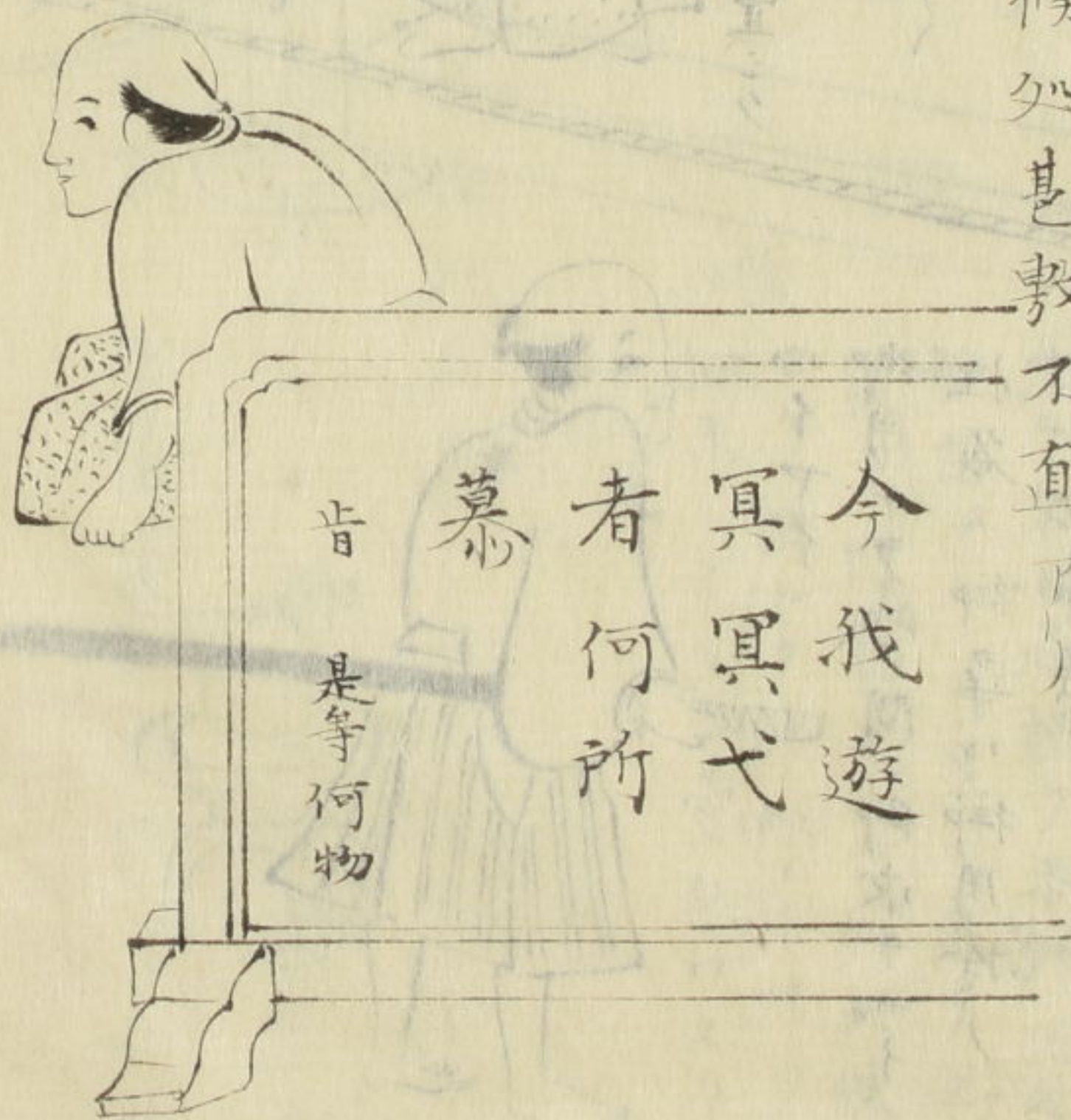


諸候ノ家老毎面目ノ體

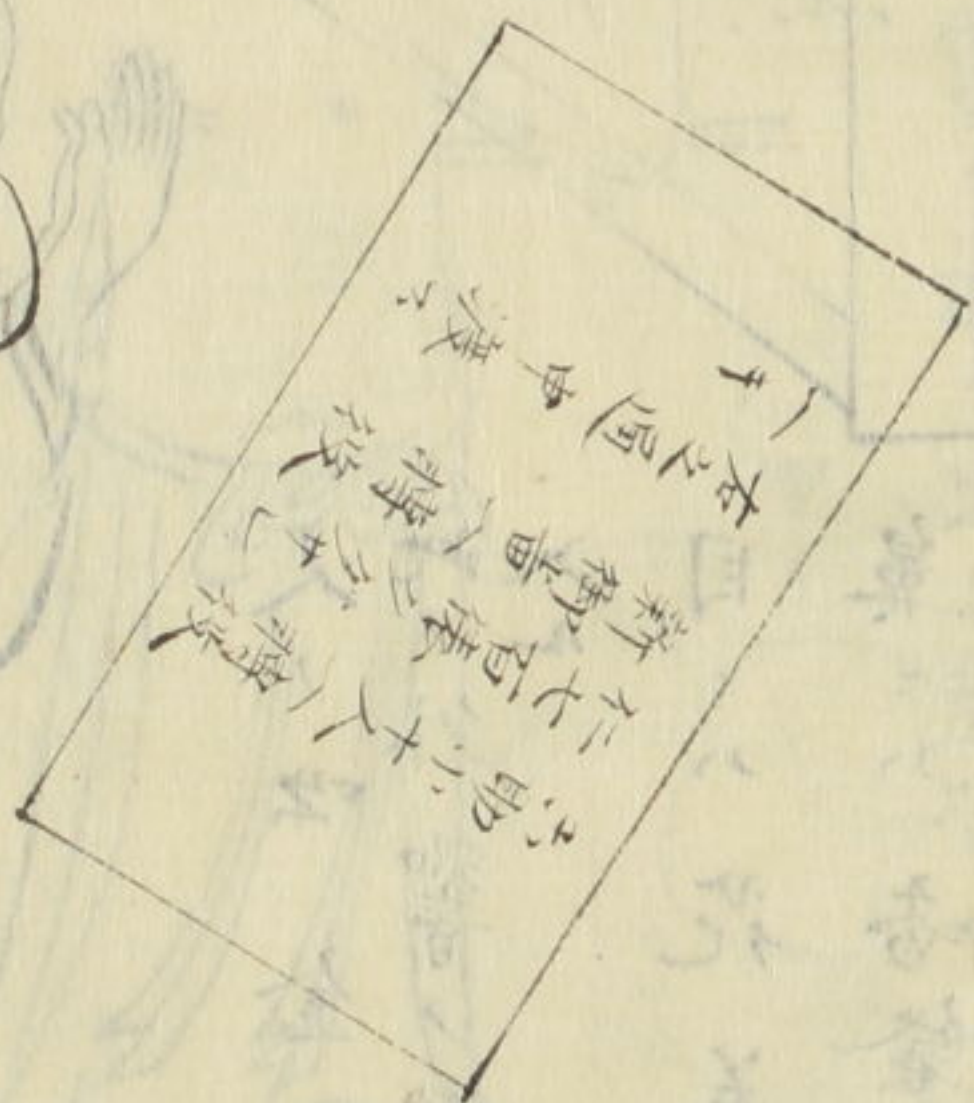
家中ノ者役替加増ナド下ヨリ賄賂ヲ以申達スル事ハ不知シラ  
 トリ扱家老モ頗ル依怙具願モアリ或時是レマラハ何ニ事モ  
 家老ニ託シ置候ガウシ心付モアレハ祐筆ハ申付家中以上  
 以下ノ勤書梅サセ自分ノ座右ハ差置博役加増申上テ候節  
 自分モ右ノ勤書ヲ披見イタシ候処甚敷不直アリ

匠業ハ別段

勤功アリ勤功ニモヨラズ  
 大報モチアリ一國者アリ  
 仁心深キアリ不実モアリ  
 身代ノ宜キニニ品アリ  
 アセラズシラ病用アリ  
 金貨シアリ  
 諂フ者アリ 嫌ナ者アリ  
 此ノ外ハ可考



屋敷繪圖  
 以上  
 以下 勤書  
 分限帳

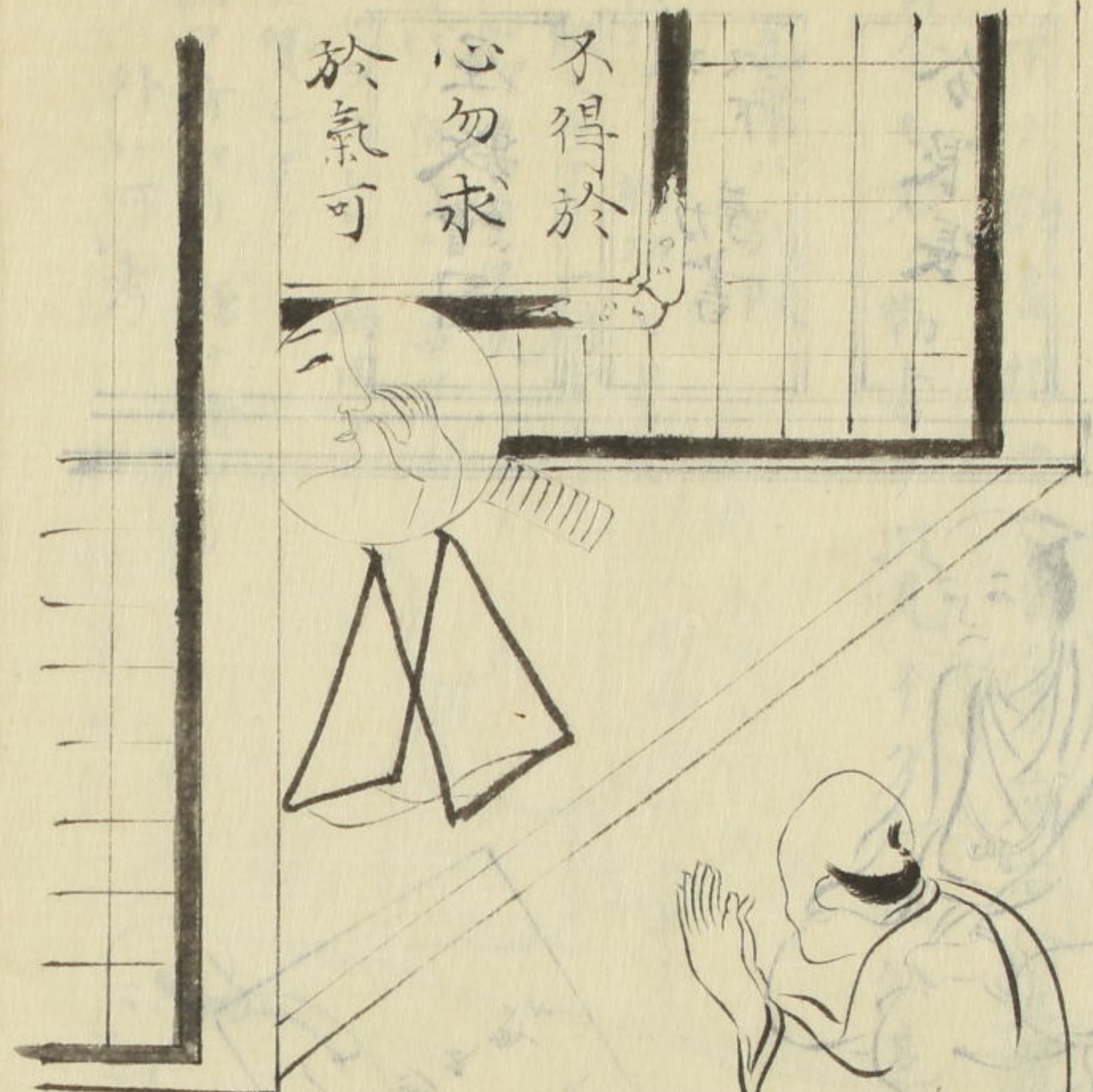


六助ヲ小人ハ博役ノキハ尤ニ  
 相聞ハ仁セハ近年召出此節  
 百俵ツカワシ博役ハイカアルキ  
 年教勤功者ヲ差置其上  
 申立候藝術モ是レヤク不都合  
 千万定テ賄賂カ鼻 某カ

家老肩ヲ恪ミ  
 鼻某ハ鼻角細辛  
 ノ外ハ不知シラ  
 玉ノ汗ダララハ



神社仏閣へ参詣ノ人々心ヲ勤其ノ氣ノ走ル事ヲ可見口ニテ述ルト  
 心ノ混雜ヲ可悟神仏へ願カケ候トテ帰路ニハ願ル安堵ノ思ヒニテ我カ  
 毎藝ヲ不顧人ヲソシリ蹈ノケ候ヲモ我立身賄賂ヲ手段是レ心ノ底  
 小毒アリ昔シヨリ神モ如クナク下筋ノ心実ニテ頼者ハ千人ニ一人モ  
 アルカナン依テ社壇ニ鏡ヲ出シ置我カ姿ヲ拜シテ帰ル嗚乎ツカモ寧



不得於  
 心勿求  
 於氣可

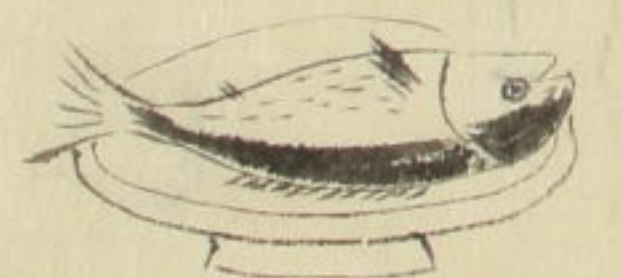


人ノ咄 金 犬 報 鳥 声  
 此ノ外 響ノ類ハ不 殘 耳ニ  
 目ニハ 花 養 如  
 鼻ニハ 香 袋 下 村ノ 鬢 ツケ

仏モ口先ヲ頼者多キユヘニ名代ヲ前ニ出シ置皆十サニキ、子イ  
 ウソヲ月夜ノ郭公ニ初松魚



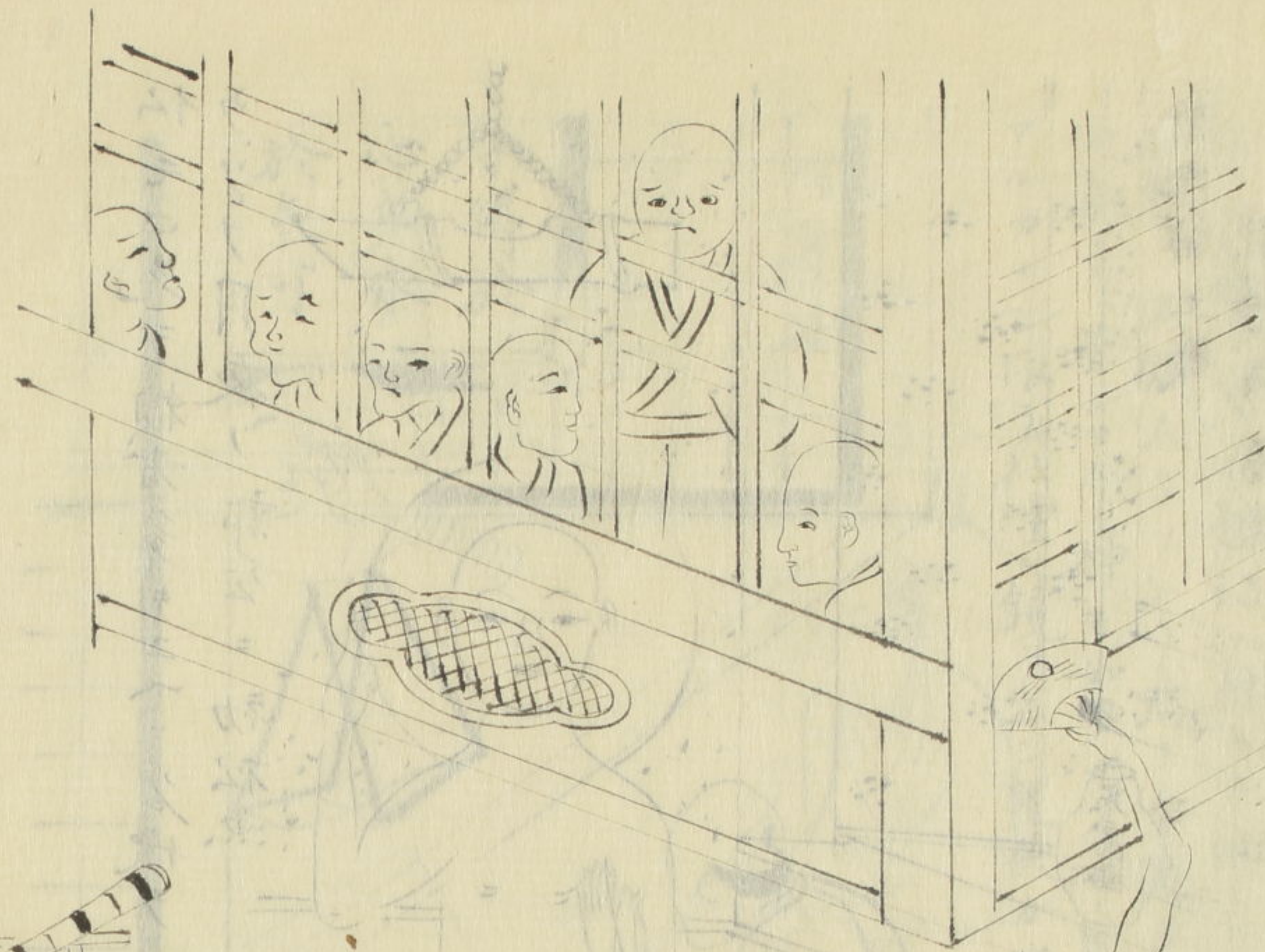
ボラカ如来曰上三下三  
 五四六不言三馬九ノ  
 ヒモノテ一盃アガシ



奈尤留土幾  
 孔子をるんと



医業見タテ



拙者が月ト  
皆サマノ御見立ハドウデガサリマス

顕微鏡 遠鏡 眼鏡

是レヲカラ子バ 秤事カ亭



カナラス山師

上手ノ毎口

下手ノ多弁

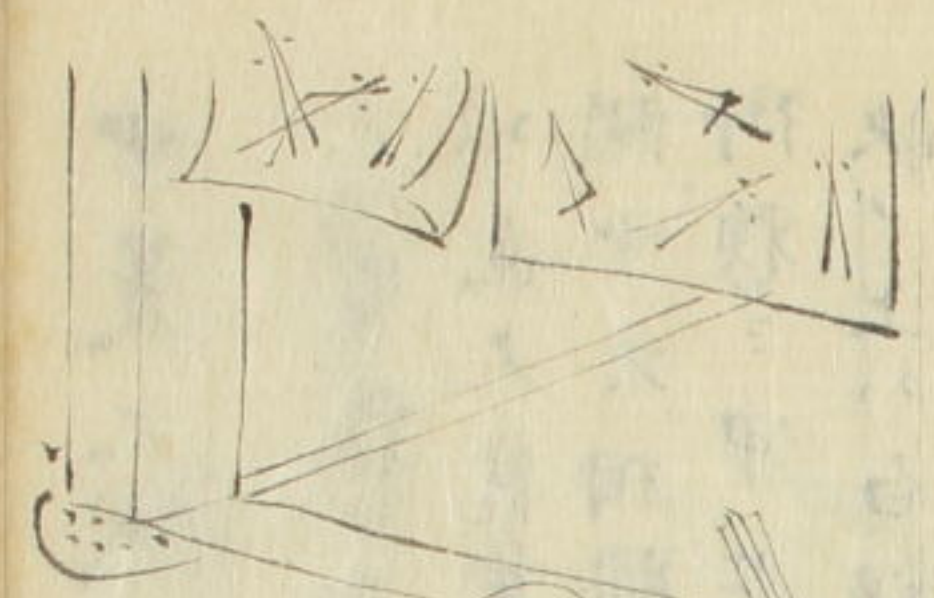
下手ノ毎口

上手ノ多弁

下手ノ心実

上手ノ不実

是レナルハケン場  
藝ノ善思ハ皆サマ  
御存シ



ウツラツキソウナ顔色

自分ノ  
短ナル  
事ヲ  
不知ニシテ  
一向ニワカラ子イ

夜目遠目笠ノ内トハヨク言ク  
モノダ何レモヨクミヘル



中夏三伏遊魄ノ根元

アル屋敷ヨリ 女中ヲ  
以主人寵愛ノ賜此  
間中不相勝御療治  
御頼ニ申サレ度全  
快ノ上ハ白銀二枚若  
病先仕候ハハ白銀  
十枚進上イタスニキ  
諺ニ小僧ニハ天狗ガ  
八人トハ言タ

深然相是行  
諾許終心路



御師匠サマノ御心ハ

委細承知仕候

何分御頼ニ  
申上

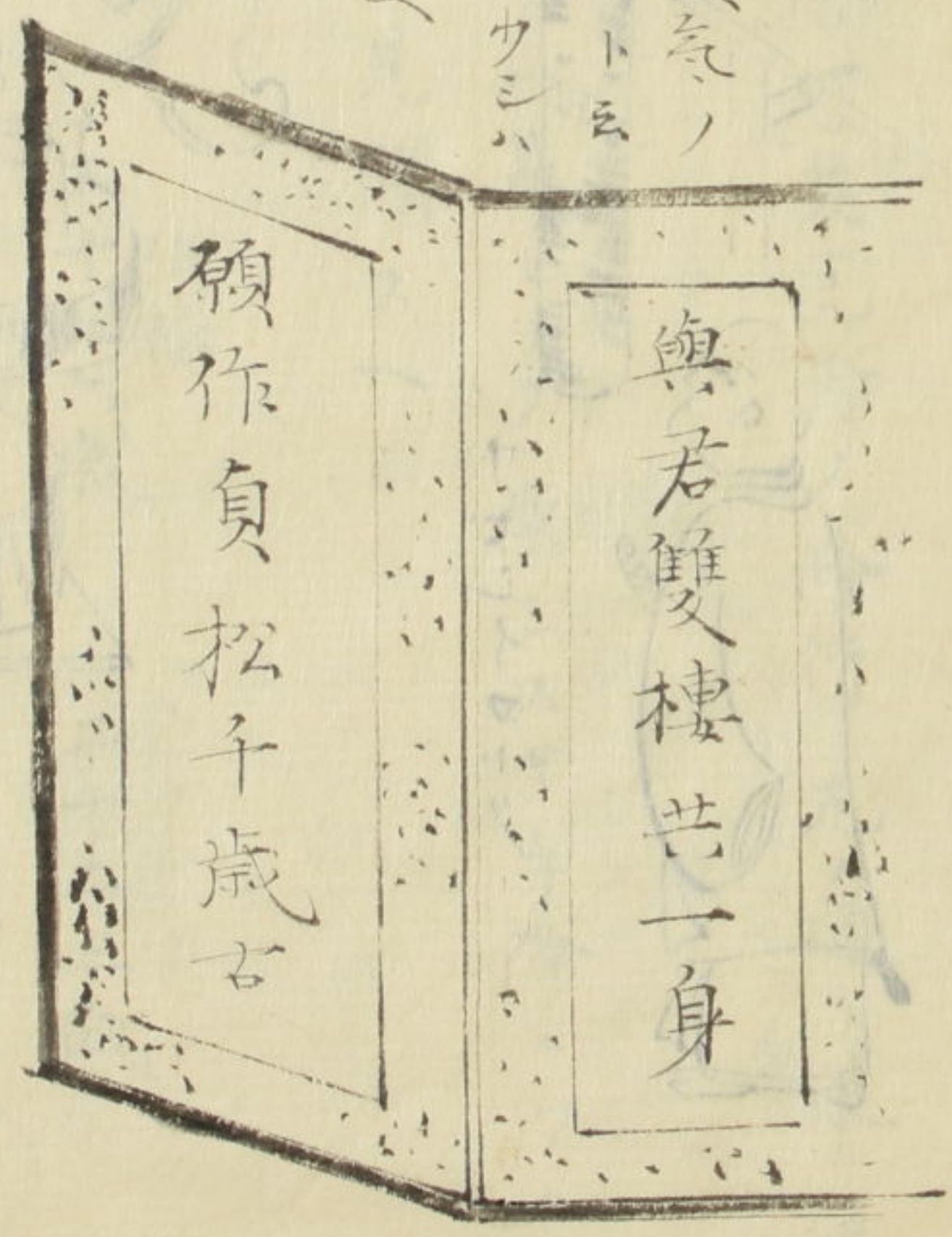


極誠此ノ上ナキノ心實

何ニ事ヲ忘レハラ嗚呼ヨイト外ハ急ノ  
不徒事ヲ可勘考是レヲ感應妙ト云  
今日他人ノ衆會ニモ如此ノ心実ヲウシハ  
アリタキ事 无且那サマ他人カハ

不得於言勿求於  
心不可支志氣之  
師也氣體之充也

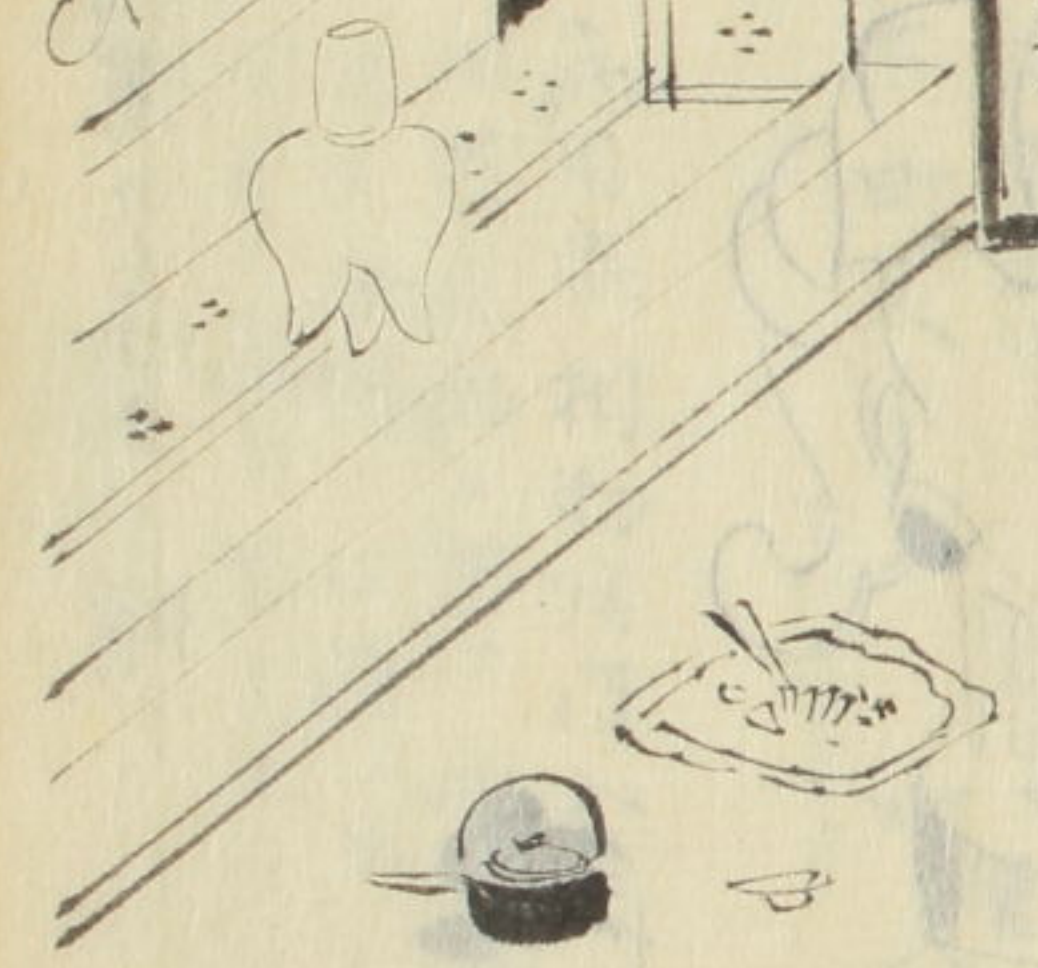
與君雙棲共一身  
願作負松千歳古



ソイラニニ鳥渡  
御出ナニセ

兔角浮世也

のんきなつらき  
世のわがま



藝術ハ病家先キ樽茶ヲ子夕ニ候  
食物ハ焼餅



源サニ一服ノミ  
子イ

こんど親身慶

辰且ハ相渡申

サビシイロクク



九十

嚼テ合メルノ圖ナリ繪ノ不都合可笑臣者ノ修行 尤通り兼り候

六十五六歳ヨリ眩暈ニテハ是レナク案ニスギ手際ニフク  
ナリ気分ニモツレルカ見聞スヘシ

法印  
六十二三歳

朝散大夫  
諸士上中  
下町人

法眼  
四十三四歳

朝散大夫  
諸士上中  
下町人

法橋  
三十五六歳

中士  
下士  
町人

二十二三歳

町人  
裏居至ラ貧者  
町人ニモ上中下  
ナリハ兩人ハ病  
人ヨリ大勢ニ  
イタルナリ

病用盛相勅候内全快ト思フ病人  
相果死病ト思フ病人全快業方モ  
迷不分明ノ心持一旦キサシ病用  
相止ノ度ト思フヨリ上達ノ端ニ  
イレルナリ



仕官ノ醫師貪欲ノ圖

吾レヨリ威ヲ振ヒ病論ハ  
板行通り其ノマニ瀆各  
イタシ手練ノアル一キ  
事ナシ



ヤウノト  
歴上

右ハ金子者

二十二三歳ヨリ三十四五歳  
中士下士町人一々年ノ内漸病人四五人

本業ヲ外ニイタシ  
一二年ノ内賄賂ノ苦ミ

左ハ道具及物

病人経験ナキ事ハ  
已レモ心ニ寛ヘアノ  
兵名ハ豆藏ト同シ  
此ノ心根ヲ際スハレ

志シハ至ラシワク  
病用ナキトキハ  
勝手ノ世話ノミ  
心カク

此ノ者ノ療治ニテ  
死スル者ヲ自裁ト云カ心ハ  
下ニ記ス通り欲フカキユ一  
君ヲモ救スル事アラヤイナマ  
前ニ記ハ通りヨギナク君ヲ  
誅之者ニスルナリ

在宿ナレハ味噌塩ノ世話マデモイタシ女房ヲ  
叱リツケ家業ハ勿論ノ事一々年ノ内ハ奉公人  
出入多仁術トハ申シカクク女房ト夫ニ向テ  
悪口ニハヤトロクト云

自欺不謙ノ圖

前記ノ通り小兒不言父母ヨリ  
客タイヲ承リ業調合イタシ候  
昼夜トモニ啼ナリ候ハ熊胆  
ヲ用或ハ天樞一發治イタシ是  
ヲタリマナリ

規矩準繩ハコレナキモカ容射ハ  
業法引當候キハ素人イツシモ  
存ニ候事ウシモ目的ナキ事ナラハ  
イカニモ心正シク利益ノ事ナド  
不思仁術イタスヘキ必口先ニテ  
素人ヲタフヲカシ依テ素人  
ヨリ返者ヲタフヲカシ見ルハ

三歳ノ小兒病ニテ集見ハナシ親モ  
世モ不相叶事ト思ヒ念ハラシニ冬治  
イタシ文ヨリヨト快ヨク相ナリ是レ  
等ハ心得ヘキ事ナリ

規矩準繩ナクシテ吾ガ子ノ愛ヲ他人ノ子  
ヘシ用ユナラバ先庸医トモ云ヘキカ

目所視

手所指

嚴乎



快方ニ相ナリ  
マシマウカハ  
氣ツカイナシ  
内義ニカハ

相應ノ身代ト相見先ツ三兩ハ  
此方ノモノ

出入ノ諸侯へ町医  
 休連五十人扶持ニテ  
 召出サレ候  
 家老云今度休連召出  
 サレ候上ハ是レマデト  
 遣入来ノセツハ  
 閨門シカルヘキト云  
 用人如御休連ヲ敬  
 スルニハ是レナク  
 上ヘテ礼ナリステニ  
 公美御老中方ニテモ  
 御目見以上百俵以下  
 ニテモ門ニテ御客ト呼  
 上テ閨門ノ礼アリ

休連云不寄存事只今マデハ云聞  
 次モ家来カ旦那カ不相分今日ヨリハ  
 子供トモ御目見以上養子相終モ  
 出来是レヨリハ金子貯子バラヌ

與權威於其前  
 無毀於其後

證治準繩

萬病回春

仁心フカキユ  
 日増ニ病用  
 頼ミ来リ一日ニ  
 五六十人ノ業トリ  
 アリ

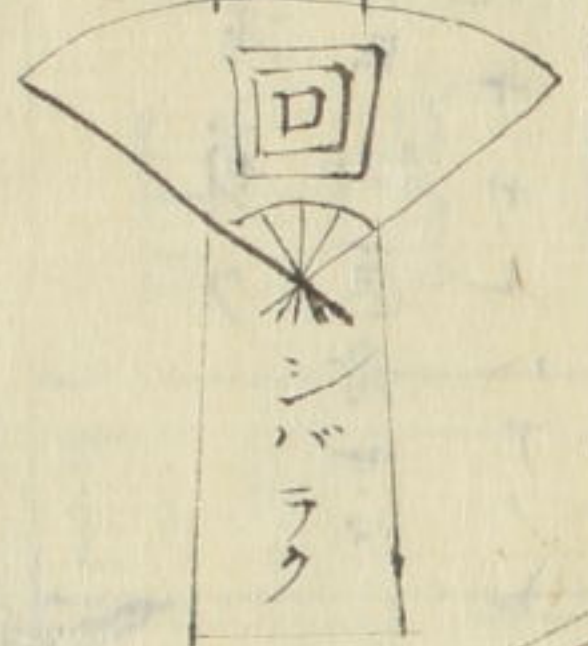
近所ヨリ妻ヲ  
 娶リ男子五人  
 出生ス



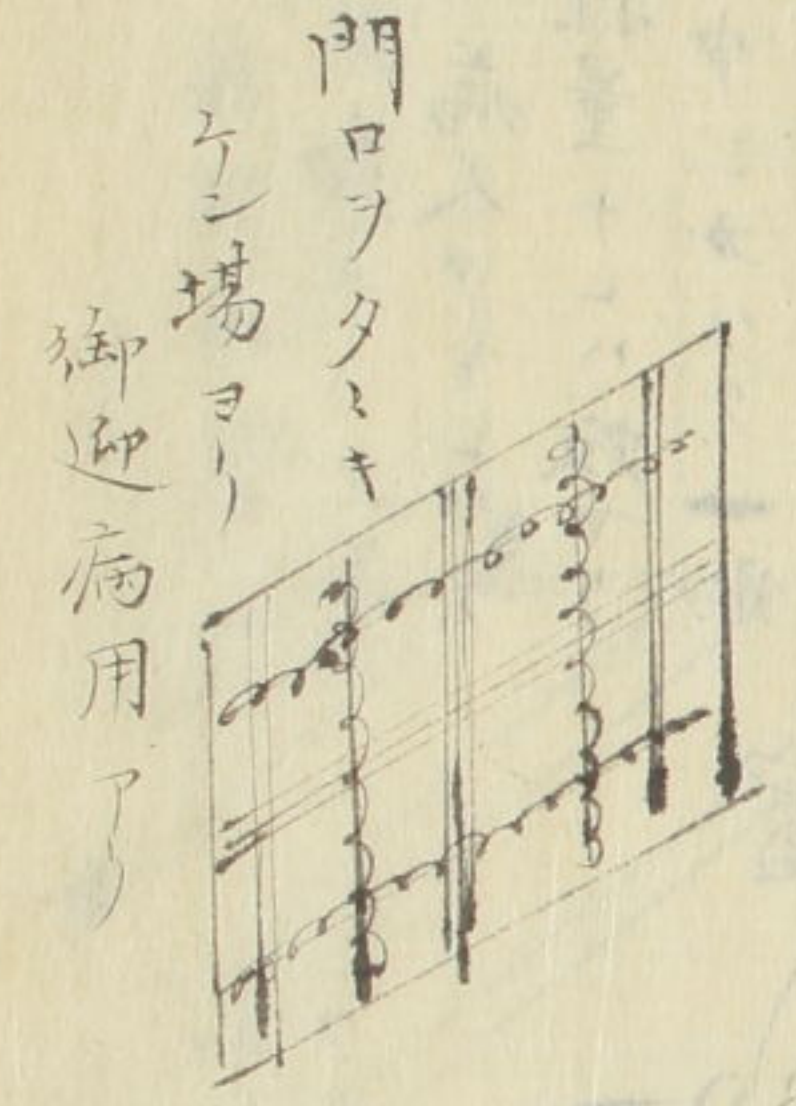
近在ノ永春百姓子供  
 三人アリ至ラ貧乏ハ  
 三男元助ハ江戸へ来リ  
 医者トナリ吉田休連  
 改名

日トト出精相勸候内秋ノ長夜虫ノ音ニ  
 ホクサレ不寝熟思フニ吾ガ身賤キヨリ  
 カヤウニ結搦ニ相ナリ病家先キ二百  
 三十俵ノ銀力ナト慶長年中御入國  
 ヲリノ家柄デモ吾レニハ不及ト云ラ  
 枕モトヲ見レハ子供ノ薫カト思ハ  
 味噌薫味噌不分明  
 酒キケンサモアルヘシ

宇宙之咄ミシラ



夜半  
 鐘声  
 到耶



昨日マデハ  
 町医ノ侍今日ヨリハ若殿サマ  
 金子サハアレハ存石デモ二子  
 石デモ  
 子カニクアバヨシノ  
 カ酒ヲデ  
 テンアラモアリ

知藥理病  
 不知  
 身賤



捷経之術医

瘡キリ 某ニテモ不愈咒ニテ愈ハ  
イカマノワテマ 医者 勘考ノ上是  
レヨリ申スヘキト云病人アキレハテ  
コノ医者ノ某ハアテ推量ナレハ蚊ヤリ  
トスヘシ直ニ断リモ申シカクク一貼  
三分積リ損マレハ徳アリ

医者ノ頭ヲ蜂ガサシ医者負ヲ  
ワシニ欺シテイル病人ガ云御医者サマ  
此ノ屏風ノ文字ヲ御覽ナサレハアノ

猛虎之猶豫不

若蜂蠆之致螫

ケカニトハ唐人ノ  
コトカシラニ



松カケ筋  
ナレハ松茸  
ノ加減ト心  
ニラホヘ

久々下麻ニテ  
腰痛ノク  
御茶頂戴

欺毎際限

兼元丸備急圓ニテモ不利  
三和散ニテ快通イタシ此義  
兼知カ否不分明ナラバ按テ

ナルヘシト云 医者今日ヨリ按テ  
昨日刺髪シテ按テ是非ハ  
イカク

大夫 スミトリ羽ナキカ如シ

医者 タドシ音ナキハ如何

大夫 音が聞タクハ頭  
テニノ、医者恐レイリ



一州一木靡不是藥

大哉聖神乾神命脉



今日ハ干菓子カ  
饅頭カ目録ナレハ  
ヨイカ

人相子ノ筋モミヘハ  
晷ノ目ニテト筋ス  
脈ニカスマリカズノコ  
ノ加減ト思ヒ

雨天ノ節別  
シテ大義

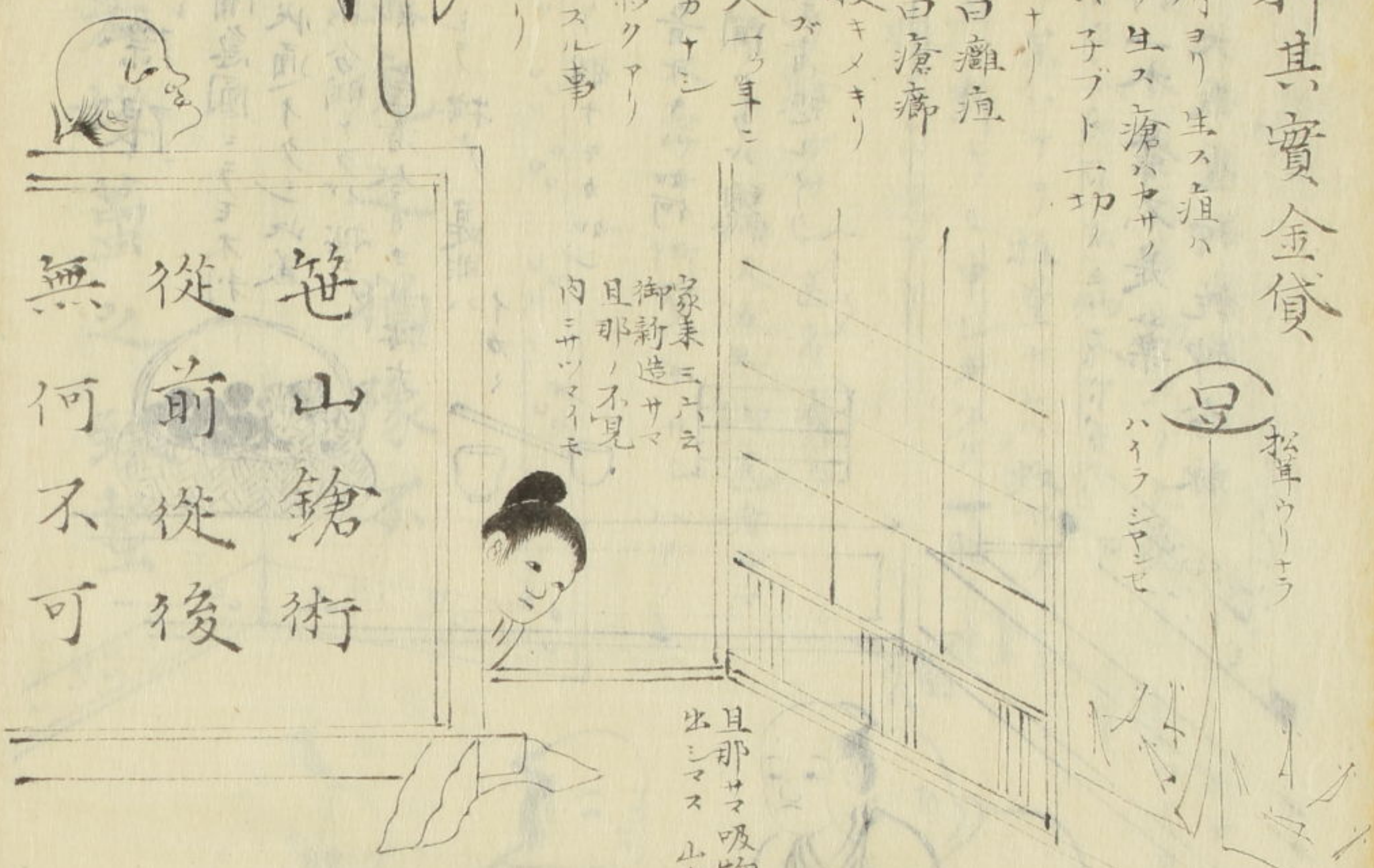
イワモノ菓子ヲ出スカ アイサツミ  
ヨリテ出スマイ

外科其實金貸

癰ハ六府ヨリ生ス疽ハ  
ハ藏ヨリ生ス瘡ハサソ  
総名瘡ハ子ブト一切ノ

腫物フ云ナリ  
一寸以上曰癰疽  
一寸以下曰瘡癤  
疥ハ傳授キメキリ  
半ハシラガ  
金瘡病人一ツ年ニ  
一人モアルカヤシ  
金病又夥クアリ  
是レヲ治スル事  
妙ニ利アリ

昨日兩國  
曲馬  
ヨイ



筈山鎗術  
從前從後  
無何不可

家来三六云  
御新造サマ  
且那ノ不見  
内ニツマイモ

豆  
松茸ウリテラ  
ハイフシヤセ

且那サマ吸物ハナニラ  
出シマス  
ムクシラ

サシニ待私腫物ハ  
何ニテモサリマス  
医者カワハライト  
云 御尤ノ  
先生 羅旬  
詞ハ アヤル  
解體新書  
アナトウム  
ナドハヨホホ  
アカルイ



心ニ業トリハ朝肉  
ナルモノニヨシク  
音菜一貝ヲ  
セ貝フニミシラ  
アルヘイ

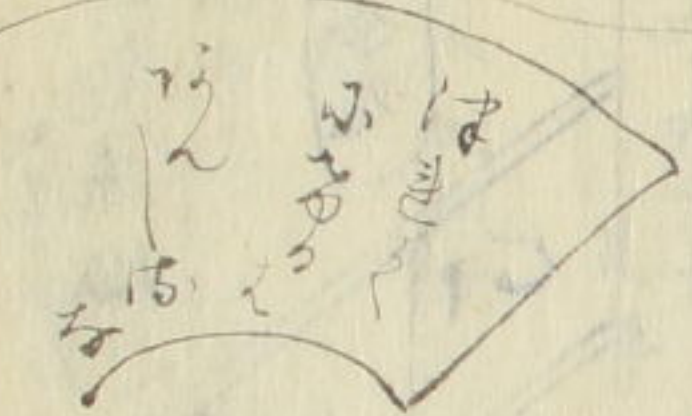
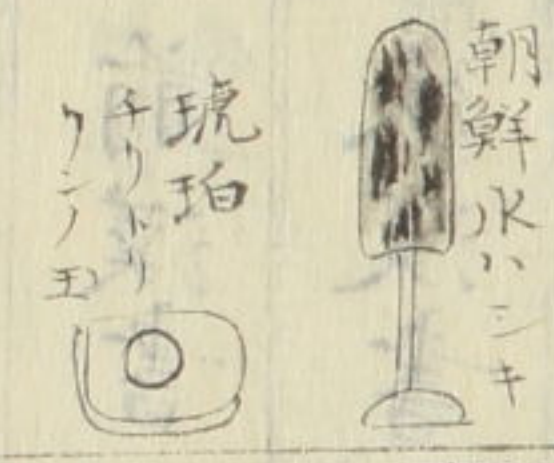
家来三六云  
且那閣暇ナ節ハ  
雅樂デモイタサ  
レハヨクニ詩會  
ノ上ハ人ノウワサ  
咄ニ御自分ヒト  
リカシコキ者ト  
思ヒ其上金貸  
ノ業ニハ自ラ  
心サシ賤クナリ  
急ニ毒子万  
三月五日マナカ子  
生憎マテハナイカ  
ワシキ事ハ  
第一義  
禪家テハ  
タイカ

小人欠落  
厭然  
其不善  
而著  
其善

外科正宗  
外科摘要

四書  
尤氏傳

唐詩訓解



亭至云足下ノ御詩作甚妙ナリ失礼ナカラ  
ヒヤウクク不念ト云客左候ハ今晩ハ  
ラウソクニ可任亭至マノヤニサイテハ  
ヒタトラマロリ

主人不相識愚見為飲食  
莫漫振舞酒中着内意錢  
是レハ  
拙者ガ依先生ヨリ  
毎夜御傳授

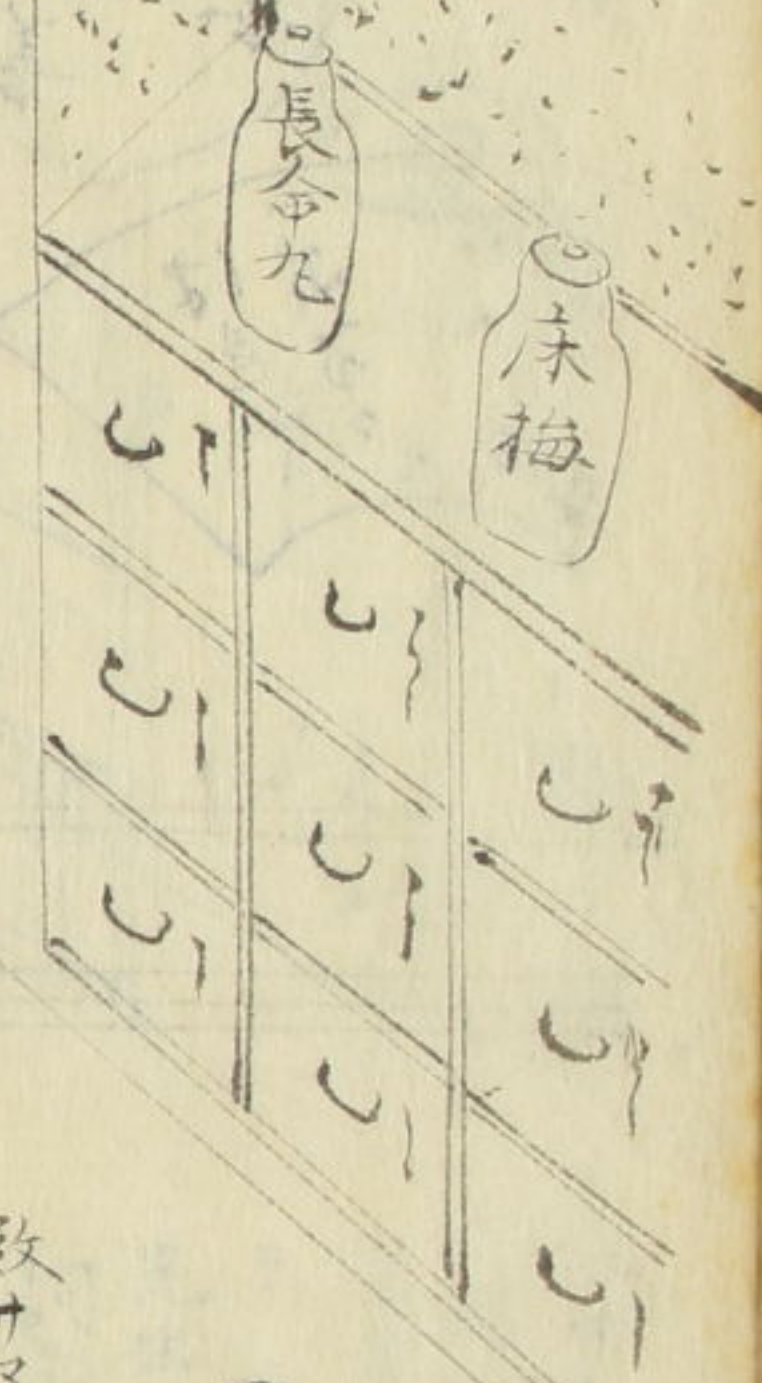


不見又  
但聞泉息響  
御家来茶ヲ一杯

禄トリノ大医

召仕ノ男女ドモ  
十二三人アリ  
コザノ病人ハ  
イツデモ  
苗守ニイタシ五十俵  
百俵位ノ處ヘモ断リ  
此ノ内身正ヨシキ方  
ハ見マシ  
大医工ヘエザク病人  
ノアルヘキ事ナシ  
狂キ者ツクワニ存ジ  
候モナラズ  
愚庵幼年ヨリ親ノ向上  
見識ヲ見ナライ学問  
ハ長者先輩ノ差別  
ナクキメコシラ是トス  
年頃ニナリ 病用コレ  
アル節ウロクヘ割雞  
用午刀ノ働キモアラ  
ニヤイナマ

史記	三國志	晋書	陳書	十三經
前漢書	後漢書	三内方	傷寒論	本草
			千金方	淮南子



世上ノ医者イツレモ  
文旨不遜ニシテ不足  
論ニ学ニ云外カ  
尋章摘句腐レ者ナリ  
腹痛ハ木香  
頭痛ハ川芎ト  
書物通り急ニ度  
イクレクモノク  
致サマ今日ハコトノ外ヲサマ  
御酒ノヲサカナ  
トノ 寒ヲ殺厲之氣  
コフキ大根ニイクスニシ  
鈍庵  
愚庵  
余ハ御自分ノモ  
某ハ此方ノモ



昔シ道三ト云良医  
アリ暑中カクランノ  
第ト書付テ

北史 濟生方

出シ買者影シク是レ  
アリ或人ノ云 飯名  
因違クハクラント書  
ナラシ支ヨリ一向ニ買  
モノコレナク世ノ中大醫  
此ノ位ノモノナリ

舉頭  
望昇進  
低頭  
思飲酒

粥  
飯  
當思  
未處

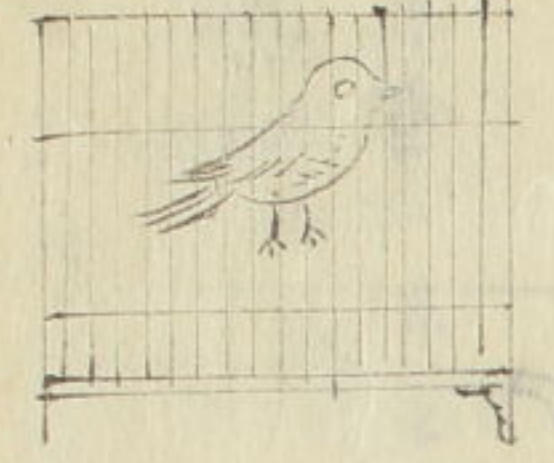
三平綱目ニ云願ル  
虚言アリ病人ハ  
イウレテ練テラテハ  
鈍庵ナラテ練トハ  
三平左様ハ甲シマセマ  
御意ノ通り不重不咸

字問クニアレハ  
自慢ヲ吐キ人モ  
尊敬イタシニガノ  
ンキ事ナリ

愚庵生長シテ二十歳ニテ  
向上見識タカク

風為百病之  
長岐伯所謂  
有四アラ  
見寧

病人松風カ  
意風カ  
愚庵其ノコイ風ト  
思フニモ  
病人ヲラフニク



鴨鵝カ讀書ナラ  
ヨシツイン病用  
アリシ事ナシ御苗  
ノ外ハイツモ在箱  
ソレトモ死ニタクハ  
勝手ニタイ  
可不如鳥乎



若先生子練モナクシテ  
巧者フリ多言獲利  
不如黙而益言

針医

業業而易其好  
色之心為業有  
誠也

針ノ骨ノ膜ニアツクハ甚  
大事トス五命ハ卒死

古人ノ咄ニ針深クヲロシ  
五臟ヲツラヌキ候ヘバ矢スト  
云事アリ是レニ依ラミレハ  
枚山流ヲ志トスルカ

医者ニヨリ先医ノ業ヲミテ  
ソシリ己シカ業ニイタクク  
心根ニテ病ノ根ヤシ  
深キ趣ニ云ナシ

吾ガ病家ニイタクシタキ是レ  
欲ナリ又欲ニ三言アリ  
信実 欲 謝礼 欲 カノ欲

二一〇 沖の石井  
我袖を志する事  
二條院 積波



口中醫師

齒ヲ又クニ心得アルヘキ事アリ齒ニ  
筋齒アリ上下ノ内イツレハ齒ニアルマ  
医者モ不知ナリ圖ノ如ク筋ヲムスビ  
焼コテ或ハ焼火ハシテ 切ルヘシ  
筋引出セハ一尺モ二尺モ引出切レ口  
ヨリ 血出ワレハ 不止 落命ニ及ヒ候  
齒磨ノ方

粗ノシラマキニ丁子龍腦ヲレ可加  
一方

石膏 丁子龍腦 少シ加  
右ノ二方ハ朝散大夫ナド 相用候ヨシ

平日賣買ノ齒ニカキハ房別 并伊勢  
砂ナリ 腹内ニ入り宜シクモアルマシクヤ  
薬弱ノ砂ハライ有リ 御勝手ニタイ  
齒クサノ方

スモミノ 木皮 茯苓 甘草  
右三味煎合吐出又念数次  
口中ハイカミ 清ク嗽ヘシ人ノ 惡香ヲ  
鯉ヲ可思 況マ 医師ヲヤ

侍臣最有相如渴  
不賜金莖露一杯



イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ

香梅散

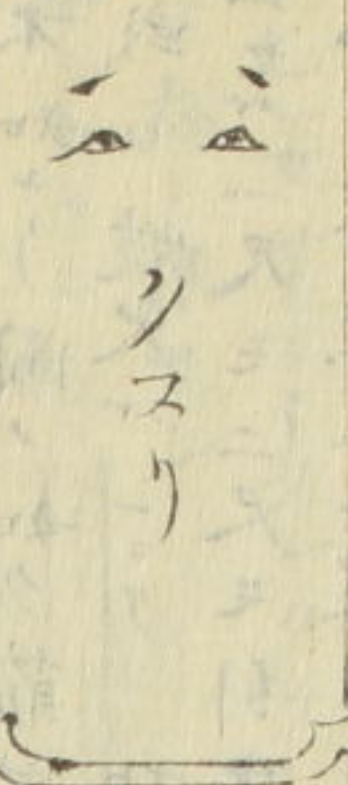
此ノ奴モ廣ク書ニ  
不渡浮世ノ 板ヤツ

於医者サマセエニ  
祖徠ガ右ニ出ル者ハ  
ナシト云 医者 田舎者ハ  
奇特ナ兄ニイサ  
カクムスフ  
医者心ノ内ニラ

眼科

世エニテ目洗業ヲ熱湯ニシテ洗ヒ痛ニハ  
 快アルヘキナレドモ甚思シキナリ人之有兩眼  
 猶天之有兩瞳ト云ヘリ熱湯ニテ洗ヒ盲目  
 候者又ハ一生涯カスミ候者アリ  
 腫子ハ屬水曰水輪洗業ヲシ業トモニ水ニ  
 シテ用ユヘシナカヌル湯ニテモ毎用ナリ  
 是レマデ経験ノ有ル事工ニ記ス目業ハ  
 スレテ寒業ナリ  
 眼目ニテ痛ミタハカクバ古生姜ヲオロシサスヘシ  
 突目ノ方

氷砂糖 燒明瓦 辰砂 各五分  
 右三味ヲ末耳カキニツホト目頭ヘサスヘシ



此ノ医者木子字ニテ世上ノ儒者トモ著述見ルニ  
 不及ナドカクヘシク甚狭キ見識心中可察眼ハ  
 看極通リ不クナシ是レヲ井ノ内ノ蛙ト云

迅風拂裳袂白露霑衣襟  
 獨夜不能寐橫衣起操琴



日本人ノ著述唐本ハ  
 勿論ノ事選リキライ  
 ナク見テ善惡ハ己レカ  
 胸中ニアルヘシ如此眼玉  
 ニテ見ルヘシバア



若殿サマノ思召  
 恐レイリマシタ

活千人者子孫必報

禄之有無  
 不拘大報持

浮世醫師至ラ

女育ニシテ産ナリヨクイタシ  
 諸士所人ノサヘツナク所謂  
 通人トモ云ヘキ病用少ナリ  
 女房モ亭主ノ氣配ニ准ス

医者部類荒増

臆病醫師 大病人ヲ見  
 テニケル

飛上醫師 病家先キニテ 吾レ面白  
 人カシマシキ事ヲシラズ

世間不見醫師 吾レヨリ上手ハ  
 ナント自慢ヲ吐ク

空體醫師 人ノ療治ヲ何ニカ料  
 簡カラシテ業凋令

威醫師 自分ノ業凋劑モセスレテ  
 只ツトシ

虚言醫師 人ノ吐ク 吾カ智ニ  
 云ナス

賤醫師 病家先キ酒會ノ出ルヤ否  
 心カケ

病用大報モ千半分  
 酒ヲスコシ朝後イタシ女房ニ  
 ミリカカレテ逆上シテ坐シキ  
 ノ吐モ耳ニイラス



亭主モ餘リハサケレドモ  
 女房ニハ願ハ世間ウハサノ通り  
 奥方モ近衛カラスキサ



御尤ノ  
 女房ニスコフルハ  
 承知ナレドモ  
 マノハハ一向ニ合點  
 ユカスシテハア

コノ下カラ  
 ヨリキカ  
 子イ

キラス計ヲ  
 上リマゼイ

天性氣質之稟不能齊  
有性善性惡性善惡混  
者

子供ノ養育ハ友ニヨルヘキ  
家来アル者 家来ノ内一人  
惡ヲ智ナル者アルハ圖ノ  
通り間違ハアルハビキヤ  
心ニ覺ヘテミルヘシ

晋平公問居  
行曠曰國  
五墨墨アリ  
イヘリ 家ノ内ニハ  
六墨墨アリ

性善



知長也  
佞者斗  
愚少似

三人心ノ内ニ書物ヲ讀ミ如ク  
ナキ人ナレトモ己一人ハヒアリ  
大塚ノ嫉ヲ不顧氣ノ毒ニ思フ



間ニ  
孫子異子ノ内  
面白キ也

唐テハ鹿ヲ見セテ馬ト云  
マテハ羊ヲ見セテ  
兎ト云

人而莫不

飲食也鮮

能知味也

楚共王  
召令尹  
曰莞蕪  
吾我然  
常正我  
以義若  
與公不  
宜之申  
候伯常  
吾所好  
者先若  
服之若  
與公歎  
樂之  
功不細  
過不知  
王愛特莞蕪乃上御



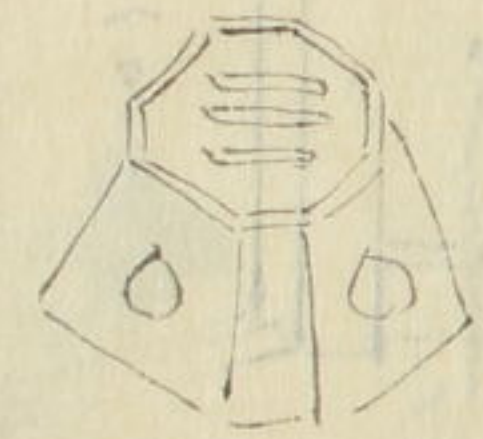
寝勝手  
咄シテキタ方  
宇又ボレ固ヨリ

至人ノ心ヲヨク  
吞ミ候ハ別ニラ寵アリ  
咄ハ近思様ノ類ヲ云折リテ  
見テハ誰レノハ御沙汰アルヘキト云



御腫人參ヲ蜜製ニ  
イタシ朝鮮ト偽リ  
是レヲ贗物ト云

目テラシヘ目テ悟ルアリガタイ  
晩ホドハモミシノ吸物ヲモ  
ホタテモ御望ニダシ





寧為百夫長勝作一書生

人トシテ何カ我カ  
長達ノ事アルヘシ手跡  
ノヨキモノヲ勘定方ヘ  
ツカイヲ露シノ上手  
ナル者ヲ右筆ニイタシ  
右ノ目理ナキユヘ萬事  
本都合年中周章イタシ  
候夏ハ冬ノ物ヲ梅冬  
ハ夏ノ物ヲ梅人ヲ使モ  
平日ノ目キイタシラキ  
是レヲ倒ヌ先ノ杖ト云

六墨ノ一ツ役人我カ氣  
ツムキ候者ハ彼替申シ  
付我ガ心ニ叶候モノヲハ  
昇進イタサセ候類ナリ



仁信ナル  
吐シ

慮不在患日  
不則在患日



五平ドノアニハク  
ヨクヒキタメテ叶候  
上ハ及物ガモ通具  
ガモ私ガシリモナク

性惡



人ノ口先キニタマサレ  
ルモコトニヨルハキ  
又医ハ所以奇死生  
モノ此方ノ性惡ヨリ  
其方ノ惡ヲナラスヘシ

五平藝術免許ルカ  
兵衛大病人トリ扱全快ノ者ドモノ  
名前町人ニテモ不若書付ルカ  
書付ハ是レナク左スル何ニユヘニ  
申シ渡マ



五平兵衛内  
御吐申上

四十九年ノ非ラ  
不知シテ幣物ノ  
為ニ進達スル事  
如此

人ヲ見ルト不見トハ莫大ノ  
違アリ左右皆曰賢未可ナリ



楚莊王與賢相虞丘子語妾媼掩口而笑王問其故曰今虞丘子為相  
教十年未嘗進一賢知而不進是不忠不知是不智

孔子誅  
少正卯  
トアレハ  
人ハ善  
惡混ス  
ルヲ吉ト  
スルカ  
善惡ハ  
則賞罰

御示人以口給

屢憎於人

其身正不令而行  
タトヘハ人ノ  
ヲサトナリテ  
善惡ヲ吟味ク  
タスナラハ平  
日ノ余會ニモ  
以上以下  
階臣ノ差別  
アルハキ事ナ  
リ  
或老人ノ吐  
キ先年越後守  
光長不能制  
馭家来ニテ  
固除ル是レ等  
ハヲホヘテ  
ヨキ事ナリ

性善惡混



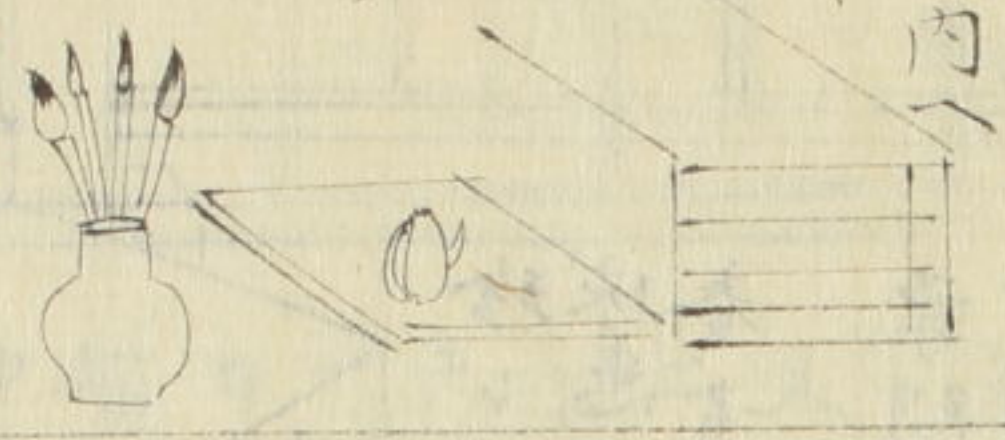
恐レナカ  
ラ是コリ  
御吐シラ  
申シ  
アケマス  
昔  
晋大夫祁  
奚老晋君  
問曰孰可  
使嗣祁奚  
對曰解狐  
可君曰非  
子之讎耶  
對曰君問  
可非問讎  
也今時人  
ハ私ノ道  
恨ヲイダ  
シ君ノ爲  
ヲ不知



學者ノ不直  
ヲトルカ  
文有正直  
ヲトルカ



役人ヲ四十八  
鷹ニタトヘ  
中ニモ馬  
蕙鷹アリ  
我ヨリ  
役人ノ  
顔色内ニ  
至ラ賤ク  
他人ノ内  
来リ候ヘ  
ハ只  
飲食ノ出  
ルヤ  
否ヲ考  
其ノ  
モ云事  
既ニ



徧負胡曰見  
而時習之  
不亦喜  
說乎

見之不已  
如鷹  
數飛之  
又時習  
之則  
所見者  
熟而其  
進自不  
能  
已之或  
所見者  
在我故  
說



人ノ學問  
シラ志ハ  
ナラ  
カスレテ  
人ニシラ  
レシ事ヲ  
思フエ  
心根ハ甚  
賤キ  
ナリ平日  
心ニ利ト  
勢ト  
ヲ授キ候  
ユ一  
文有正直  
ナル者ト  
ラモ終ニ  
違逆  
シラ未ハ  
遂サルナ  
リ是  
ヲ不厭シ  
テ出會ス  
ル者ハ口  
腹ニヒカ  
サレルカ  
心ノ賤キ  
事十倍ナ  
リ

馬蕙不直  
テモ  
學者ヲトル



馬蕙先生  
自分ノ申  
ス事ハ  
非ヲ是ト  
云ニシ  
文有直  
三モ  
次有アリ  
假名付  
ノ四書  
位ハ最知  
者モコレ  
アリノ  
肝積ト  
相ニ



筆道軒

千秋

萬古

北邙塵

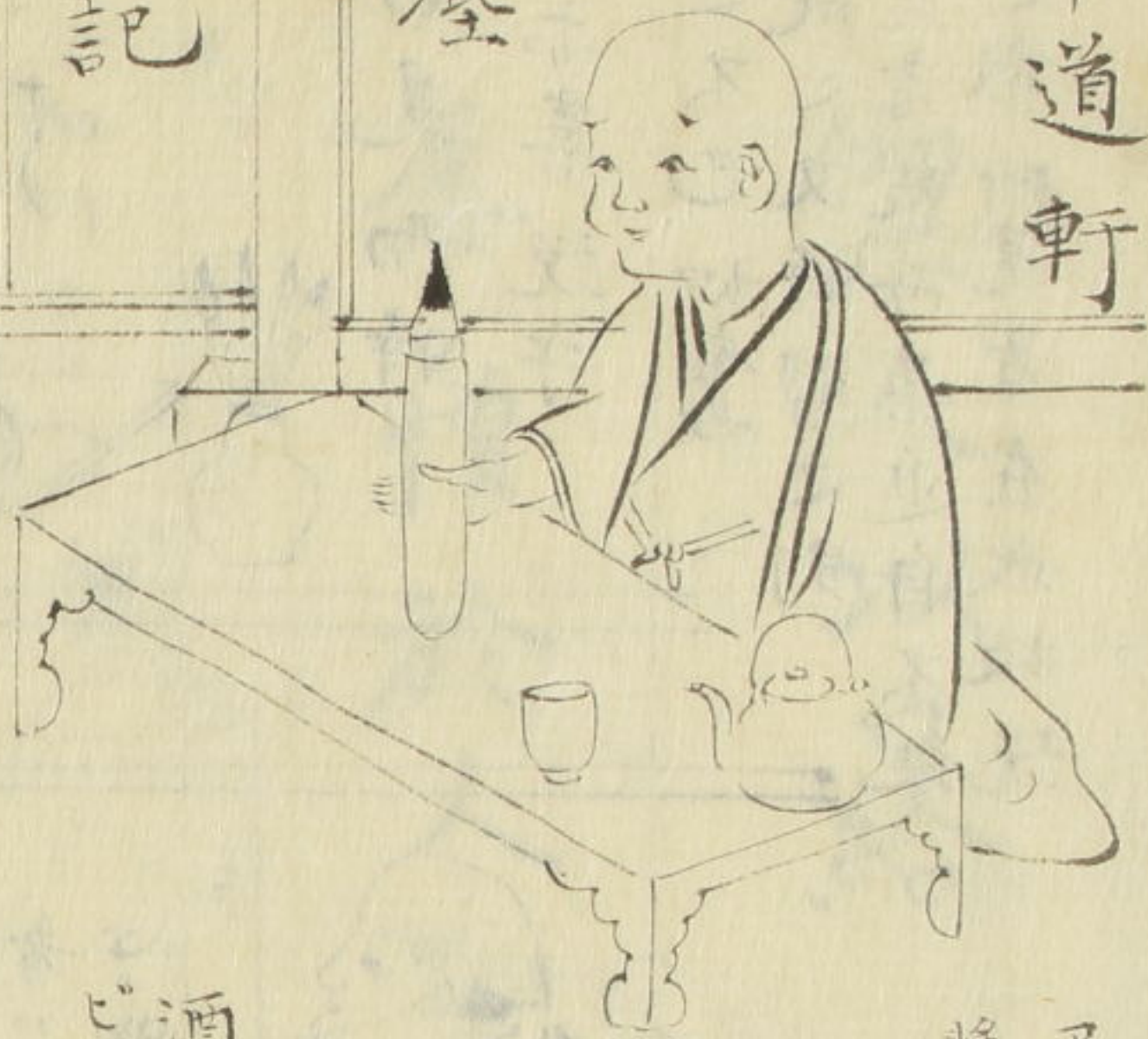
日本記

論語集解

金匱要略

長唄 稽古本

張注列子



アレニカサリ置キ候塞ノ臺ニ甚ナリ  
醬油ヤノシマウコラ當分カリウケ申候  
ヲカシクバ御覽ナサレナ

童箱ニ煮者アリ  
是レヲ廻シテ一盃ノ  
樂ハ又格別ナリ新嘉  
ノ臺ヤニモアリ

酒ト引替ノ札アリ是レツ  
ビリト云岸田ヤニモアリ



ナモノニシテ  
カク別面白イ

珍々凡意曰琉球世子来聘所献黄雀其頭其一道寒死琉  
球患之以告於薩人云曰以和雀代之亦可也從之及献  
奏者詰之曰啾啾嚶嚶間有和音者何故之曰是亦通事

學問ニ何ニ流ナド云事アリ 古学ト云ハ 孔安國  
董仲舒 鄭玄 趙岐 何晏ナドノ説ヲ云 朱子学ト云ハ  
宋ノ朱喜ノ説ヲ用ユ宋儒学トモ云 陽明学ト云ハ專  
良知良能ト云事ヲ云リ 新註ト云ハ宋ノ世ノ学者ノ  
説ヲ云ナリ 宋ノ世ト云ニツアリ 初ノ宋ヲ劉宋ト  
云後ノ宋ヲ趙宋ト云 古註トハ漢魏晉等ノ世ノ人ノ  
註ヲ云ヘリ

詩經

忠臣藏

淮南子

萬葉集

尚書

巢 常磐津 稽古本

周易

涅槃經

世上ニテ 闇赤流 祖徠流 ナドニ 唱へ祖徠流ニカキリ  
世ニ 儒家ハナキカ如クニ思ヒ 他ノ文章 ナドハ見ルニ  
不及ナドニ 狡キ料簡 蓋田分ハモ云ハシ 徠カ南苗  
別志ニモ心得違アリ此ノ外ハ文ナカケレハ略ス學問ノ  
イタシカクハ宇宙ノ書籍ヲ眼ヲ四ハ如クシテ見ルヘシ  
人ニ 塞ヲ賤シニスレドモ 賤事コレナク則九九ノ目ナリ  
二十一日アレハ人ノ大推骨ノ數二十ナリ又東西ノ數ニ  
トレハ東三八西四九南二七北一六中央五ナリ塞ハ  
六面一天地六東五西二南三北四コレガ本體ナリ是レヲ  
一ナヨリ筆ニテ六マデ順ニ引キ候ハバナギリノ形ニナリ  
日月ノ運道モ考見ルヘシ是又專用ナリ人ニヨリナリ  
盤ノイラ又者モコレアリ去リナガラ 九九デモ可知ナリ  
中庸ニ 弦六合トアレハ萬事知テ損ハ子イヨ  
又家内ノサイニ 閨中ノ曲アリ上三下三下九上六雀ノ  
チヨシノハ舟ユスリアリ外ニ 憤鼻禪ニテ引船ノ傳授モ  
アリ御覽ナラ夜分キ子イ

彼ノ一義六十已上不可泄六十歳後モ形氣盛飲食ニテ  
腎氣盛実ナル者ハ強テコラフヘカラス年先テ色慾ヲ好ミ  
壽頤ニ 純ス衰ナルカナ彭祖曰服菜子朝不如此夜獨宿ニ  
佛ニナルハイラヌモノ 石仏等ヲ見ルニツケテモ

天經或問

水滸傳

尚直編

金翹傳

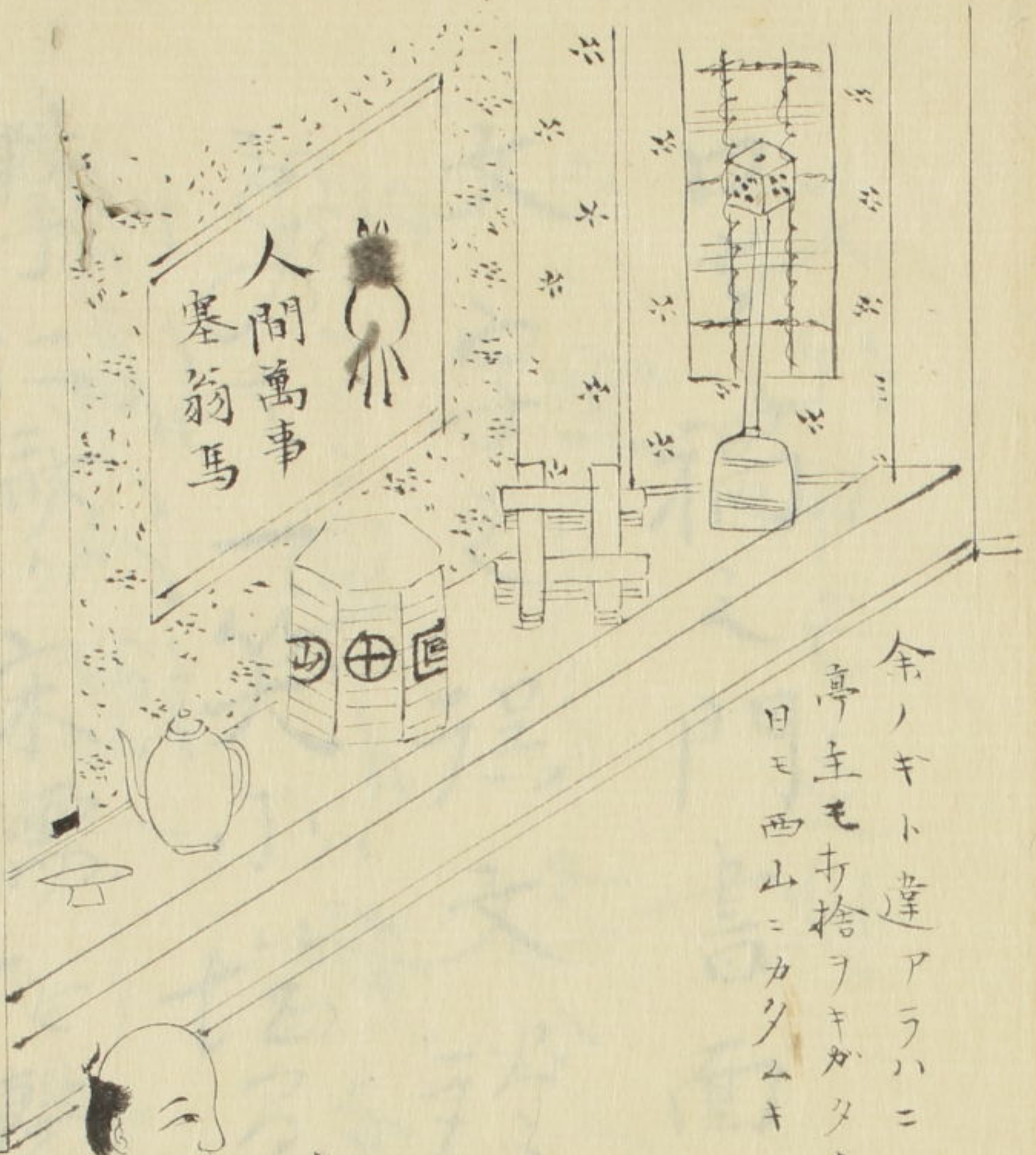
一六 平旦 固語  
馬中 排諧

二七 日中 淨瑠璃  
日入 韓非子

三八 食時 論語  
日昃 狂歌

秋、未ヨリ所ノ屋敷ニテハゴニ於鳥ヲアケテ鳥ヲ  
トリ候人間モ女房ヲ於鳥ニイタシ茲通ノ出来ルヤウニ  
シカケ出来サルヤウニ手段アリ此ノ於鳥ニカ、ノ丸裡ニ  
ナリ終ニ亭主ヨリ尻ヲクテ同輩ナレハ先ヲトテ  
一生涯頭ノアカル事ナシ或支婦承知ニテイタス事モ  
是レアリ人ノ心ハカリカクシ

人ハメヨリ心氏ヨリ養育ト云事アリ養育ヨクテモ  
至テ根性キタク各ナル者アリ見カケ人物悪敷テモ至テ  
志シ唐ク香ハシキ者アリ賤キヨリ藝術上達テ貴人ノ  
側ケタク一罷リ出候者ハ稀ナリ医者ニ多ク是レアリ幼年  
ヨリ貧家ニラカニシテ年頃ニテハ醫業モ行ハレ自然  
身代モヨクナルニシタガヒ心モ右ニ准シ賤キ事ナクミクキ  
人物ト云ヘトモ度々出會ノ上ハドコマラ寛大ナル者アリ  
是レ仁ノ術ト云ハキヤ此ノ心ウキナク拙梅ヲ不察シテ只  
人ニ應對ノ見トリ諸候方ニテ召抱或召出シテドハ  
目アリテ如毎耳アリテ如是レヲ研木男ト云 医者モ  
心賤ク藝術モ未熟ニラ身ノ昇進ノミ好候者ヲ盲目蛇  
不感トハ此之謂カ



人間萬事  
塞翁馬

余ノギト違アラハニ申シガタク告レハ女房ノウラニ深ク  
亭主モ打捨テキカタク是レヲ告ルニ妙手段アリモハヤ  
日モ西山ニカクムキ手段ノキハ明日

ヲキク  
ケレカラテイ

四九 黄昏 孟子  
入定 吉原雀

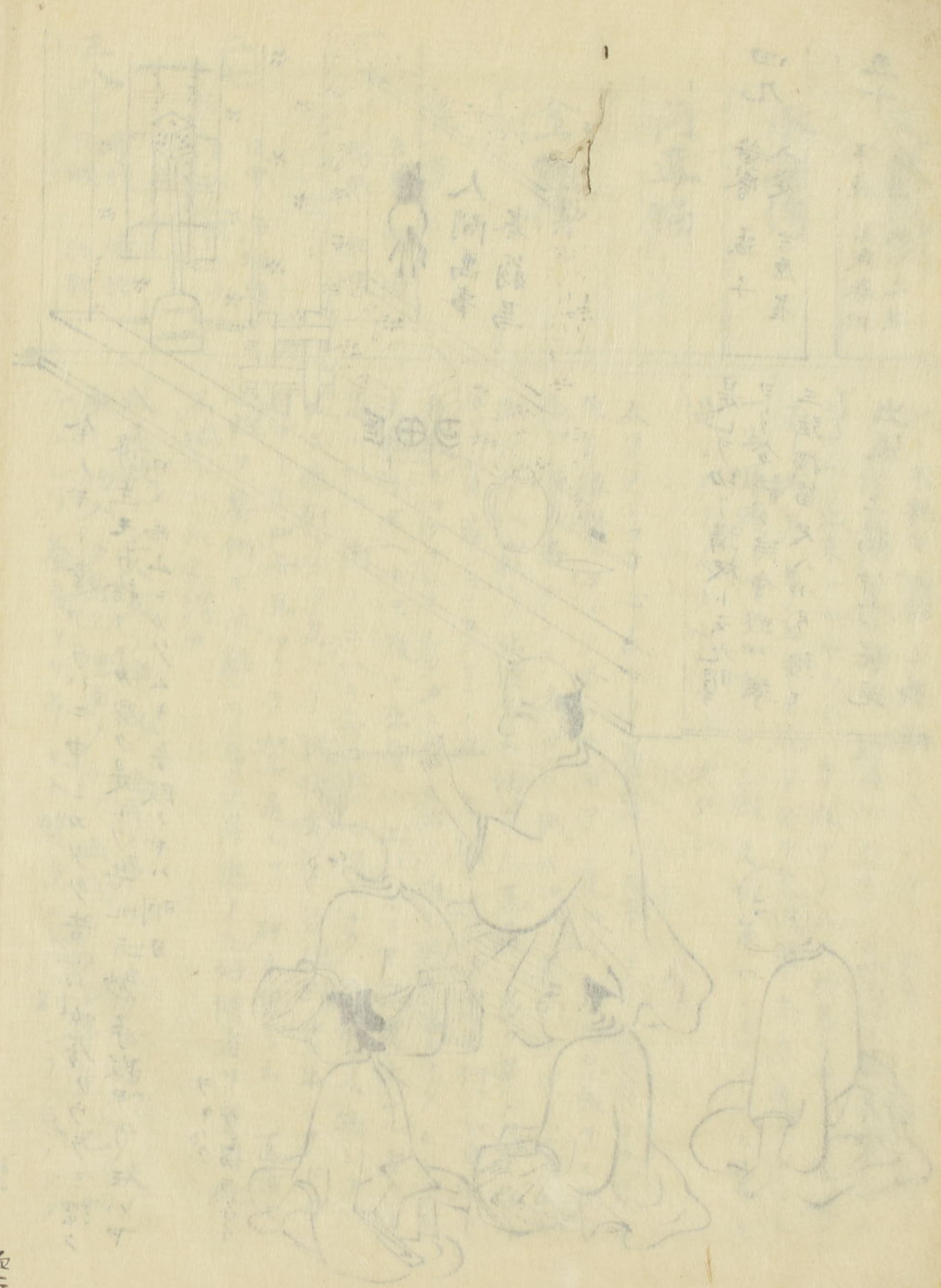
五十 半夜 名氏春秋  
雞鳴 矢口之渡

是レ切リ講釈ト云九明ク  
ヨリ分韻ノ詩會或ハ琴  
三弦横笛尺八ハ弓鼓モ  
アリ

出張

土橋仲町 裾籠  
櫓下 御旗 石場

口を禍之門書面者人之笑草  
 文字之程文雅之前後一覽  
 之のそ一笑小増るゑ大宰り朱み哉  
 撃手仁赤り宋儒を撃手是筆之今々を  
 面張るおけりうきうきさきゆのも  
 あまを成ん令悪まハ目ホス人



444

ノ

承恩<sup>の</sup>あまの<sup>の</sup>あはれ<sup>の</sup>け<sup>の</sup>書<sup>の</sup>面<sup>の</sup>み<sup>の</sup>た<sup>の</sup>心  
 陰<sup>の</sup>方<sup>の</sup>我<sup>の</sup>を<sup>の</sup>さ<sup>の</sup>す<sup>の</sup>心<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は  
 得<sup>の</sup>編<sup>の</sup>成<sup>の</sup>綴<sup>の</sup>一<sup>の</sup>玄<sup>の</sup>の<sup>の</sup>自<sup>の</sup>小<sup>の</sup>跡<sup>の</sup>  
 咽<sup>の</sup>と<sup>の</sup>過<sup>の</sup>小<sup>の</sup>熱<sup>の</sup>志<sup>の</sup>の<sup>の</sup>か<sup>の</sup>す<sup>の</sup>糸  
 云<sup>の</sup>思<sup>の</sup>し<sup>の</sup>く<sup>の</sup>志<sup>の</sup>の<sup>の</sup>下<sup>の</sup>  
 文化甲子立秋  
 余利謂過

37

